

アジアのビジネス・システム研究（プロジェクト名記載）
オムロン基金研究プロジェクト2012年度最終報告書

研究代表 ビジネス研究科 長谷川治清（研究代表者名記載）

1) 活動実績

アジアのビジネスシステムの理論的・実証研究を進め、その成果を PalgraveMacmillan 社から Asian Business & Management の第2版として出版することであった。研究の第1段階は、ビジネスシステムの理論的研究で本書の第1章を担当するゴードン・レディング氏の理論的論文 Gordon Redding, The thick description and comparison of societal systems of capitalism

(<http://www.palgrave-journals.com/jibs/journal/v36/n2/abs/8400129a.html>) の研究であった。第2段階は、共通の理論的枠組みを活用して、各々の領域における個別イシューの研究を進めた。

2) プロジェクトから得られた成果

本研究の成果は、アジアの経営システムに共通のイシューの解明と各国の経営システムの分析・解明であった。全体としては、経営システムの視点から纏められた16章からなるアジア経営システムの国際的なテキストとしての成果を得ることが出来た。この成果の特徴は、16名の著名な国際的な学者による成果であり、国籍も多様である。内容的には、第1版と同じく多くの世界のビジネススクールでアジア経営テキストとして活用される予定である。このテキストの為に、優れたパワーポイントと教師用の手引きをも作成することが出来た。これらはGMB Aの学生の研究課題として作成され、長谷川が編集した。

3) 成果物（出版物、研究発表、講演など）

この研究の成果は、PalgraveMacmillan 社から2014年にテキストとして出版される予定である。この研究成果はテキストとして出版されるが、その内容は、アジアの経営に関する各領域の最先端の情報、知識、見識、視点が含まれており、高い研究水準が反映されている。この成果は更に本書の執筆に参加した研究者が各々の学会において報告する研究にも生かされる予定である。

4) 申請書に記述された内容と成果の比較（達成度についての自己評価）

申請書には、アジアの経営に関する最新の情報の集約、情報の総合的な理解、教材への統合・作成、経営システム論の展開と進化を促すと説明されていた。予測されていた成果はほぼ90%達成されたと判断する。理論的に解明の残された点は、テキストの **Epilogue** に記述されている通り、ビジネスシステム論の限界を今後どのように補い、現実理解の道具として、一層、その有効性を高めるかにある。テキストそのものは、出版されていないが、テキストの原稿、教材、教師用手引きの原稿を添付する。

オムロン基金研究プロジェクトの支援がなければこの研究・出版事業がこのようにスムーズに、迅速に進まなかった。ここに研究プロジェクトを代表し、心から御礼を申し上げます。